



子どもの成長に役立つ評価とは？

まもなく学年末の通知表かがやきをお渡しします。この機に評価について考えてみます。評価には、主に3つの役割があります。

- ① **学習者へのフィードバック** 「君の現状を私はこう考えている。こうするとさらに成長できると思うよ」という教師のメッセージ
- ② **指導者にとってのアセスメント** 「子どもたちはこの授業の内容を分かっているかな?」「もう一つだから、今度はこうしてみよう」
- ③ **学習の評定、合格・不合格の判定** 「ABC」「◎○△」「○点以上が合格」



2月27日 6年生を送る会
未来に向かってはばたけ
6年生!

評価という言葉の一般的イメージは③の評定でしょうか。高校入試、資格試験、採用試験などの試験では必要ですが、普段の授業では①フィードバックや②アセスメントの役割がはるかに重要です。

「学校教育は子どもの成長のために行う。評価も子どもの成長のためにある」

これが基盤となる考えです。評価を子どもの成長に資するものにするためには、学習者と指導者が対話を通して認め励ますフィードバックをすること、子どもにとってより意味のある授業とするためのアセスメント→授業改善が大切です。

通知表かがやきについて

さて、通知表には、学習の様子・生活の様子をそれぞれ項目ごとに評価します。

「国語の思考判断表現の力は○（だいたいできる）、知識技能は・・・」「あいさつは◎よくできる、・・・」といった具合です。そして、特にお伝えしたいこと（頑張ったこと、頑張してほしいこと、上の項目には当てはまらないこと・・・）を所見として文章表記でお伝えします。トータルで①のフィードバックをねらっています。お子さんの様子をお伝えし、間接的に保護者の皆様からも認め励ますかわりや支援を期待して通知表を作成してきたわけです。

ところで学校は、法令により児童の学業等の記録として指導要録を作成することとされています。通知表の項目はおおむねこの指導要録に基づきますが、慣例により作成されてきた通知表は、法令に規定されるものではありません。作成するかどうかは学校長判断ということです。私は学校長として通知表も含め児童の評価をどのように行い、どのように本人や保護者に伝えることが子どもの成長のためになるのかと考えてきました。

保護者、学校、子どものそれぞれの立場から通知表について考えてみます。

保護者の方からすれば、「わが子は勉強がわかっているかな、生活はどうか」という関心が高いと思いますし、関心をもっていただきたいと思います。とはいえ、通知表に△が入っていたとしても保護者の方ができることは多くはないのでは、（特に学年が上がると）とも思います。また文章による所見も十分にお子さんの様子をお伝えするには限界があります。

学校では、通知表につける◎○△を客観性高くつけようとする、どうしても点数が付くペーパーテストという評価方法が過大に重視されがちです。「指導と評価は一体」と教育界では言われますが、指導(学習)したことが、ペーパーテストのみで測れるはずはありません。観察や対話、作文や作品、パフォーマンスなどの多様な評価があつてこそ、指導の成果を測定することができます。

子どもからすれば、通知表の学習の様子◎○△は抽象的すぎてそれだけでは何をがんばればよいかわからないでしょう。具体的な目標設定と対面での具体的なフィードバックが必要です。テストで評価の多くが決まるとなると子どもはテストの本来の目的「自分が何がわかっていて、何がわからないか」ではなく、点数のみに関心が行くようになります。テストに点数を記入しなくしたら、子どもたちの注意が点数から間違えたところにいき学習効果が高まったという学校の実践もあります。

上のように種々考えた上、通知表は、年2回作成と◎○△の観点別評価は今年度までどおりとし、令和7年度から文章による所見は、対面でお子さんについてお伝えすることに置き換えます。令和6年度には前年度の学校評価のご意見を受け、個人懇談の機会を増やしました。通知表を渡す際の児童の対話も大切にします。児童・保護者とも対面でお伝えすることをより重視し、児童の自己理解と成長に資するためとお考えください。あわせて家庭訪問はいざという時のためのお住まいの位置確認とし、同時期にご希望の方とは学校で面談の機会をつくる予定です。児童の成長のための評価として完成形ではありませんが、現状ベストな選択だと考えています。

自己を振り返り未来を見通すキャリアパスポート

評価と言えば、他者からの評価だけでなく、自己評価もあります。日々の授業でも振り返りを行うのですが、さらに一定の期間を振り返り、次への目標を持つことは大切です。このねらいでキャリアパスポートという冊子に小中9年間かけて自分のがんばりや成長を記録していきます。本校では、将来にわたって必要なつけない力を「自分も人も大切にする力」「自分で考え表現する力」「がんばりぬく力」としていますので、これがどのくらいついたのか、どのような時にその力がついたのか、これからどうしていきたいのかを折に触れて振り返るようにしています。

自分の夢や目標を考える時には、自分が歩んできた道のりを振り返るとよいと言われます。これまでの人生で自分が好きだったこと、夢中になったこと、人から感謝されたこと、頑張ったことなど、きっと未来を考える宝が埋まっているはずで、それを散逸しないように記録にとどめておくのがキャリアパスポートです。ちなみにキャリアは車輪の轍(わだち)を語源としますし、パスポートは未来や社会への旅券という意味でぴったりの名前です。

終わりに

「あなたを評価している」「彼の仕事ぶりを評価している」と言えば、評価という言葉は基本的に肯定的です。子どもにとって大人からの評価は、うれしいものです。学年末に向け、1年間の成長やがんばりを認め励ましてやりたいと思います。ご家庭でも進級進学の日を生かし、お子さんの成長につながるような対話をお願いします。評価が子どもたちのやる気を促し、成長につながるよう大人は心がけたいと願い、結びとします。